Panasonic®

WH Monitor12
多回路形電力モニタ（管理用）

取 扱 説 明 書

品番　BNZY8210WHM

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は多回路形電力モニタの取扱注意事項を記述したものです。
取扱い前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、使用開始後も手近な所に保管し、必要なときにお読みください。
機器の施工説明書は別冊です。
なお、本器は省エネ目的の自主管理用モニタです。
電力料金の取引や按分のための計器としてはご使用になれません。

上手に使って上手に節電

もくじ

■安全上のご注意 …… 2
■取扱上のご注意 …… 3
■操作部と表示部のなまえと機能 …… 4
■ご使用方法１（標準使用の場合）…… 6〜11
●表示操作 …… 6
●設定操作 …… 8
カレンダー設定 …… 9
設定モードの設定 …… 10
集計日時の設定 …… 10
三相４線以外の設定 …… 10
系統１，２の種類の設定 …… 10
回路毎の系統設定 …… 11
回路毎のＣＴ比設定 …… 11
■ご使用方法２（標準使用以外の場合）…… 12〜17
Ⅰ.パルス入力でのご使用方法 …… 12
Ⅱ.通信出力でのご使用方法 …… 13
Ⅲ.高圧回路でのご使用方法 …… 14
Ⅳ.オートレンジのご使用方法 …… 14
Ⅴ.データクリアの設定方法 …… 15
Ⅵ.三相４線式のご使用方法 …… 16
■設定時の参考事項 …… 18
■使用時の注意事項 …… 19
■外形寸法図（本体） …… 20
■定格・仕様一覧表 …… 21〜22
■設定定数一覧表 …… 23
■保証とアフターサービス …… 24
■便利メモ …… 24

安全上のご注意 (必ずお守りください)

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、
必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■正しく施工、お使いいただき、施工される方や取扱される方への危害や財産を
お守りするため、次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は絵表示の一例です。）

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
修理点検は有資格者が行ってください。

⚠危険

冠水したり、濡れたままで使用しない。

水ぬれ禁止

感電の原因になります。

WHモニタの外装カバーを外さない。

分解禁止

電源端子が露出し
感電のおそれがあります。

⚠警告

可燃性ガス雰囲気を近づけない。

禁止

火災の原因になります。

⚠注意

分解や改造はしない。

故障の原因になります。

磁気を帯びているものを
近づけない。

故障の原因になります。

取扱上のご注意

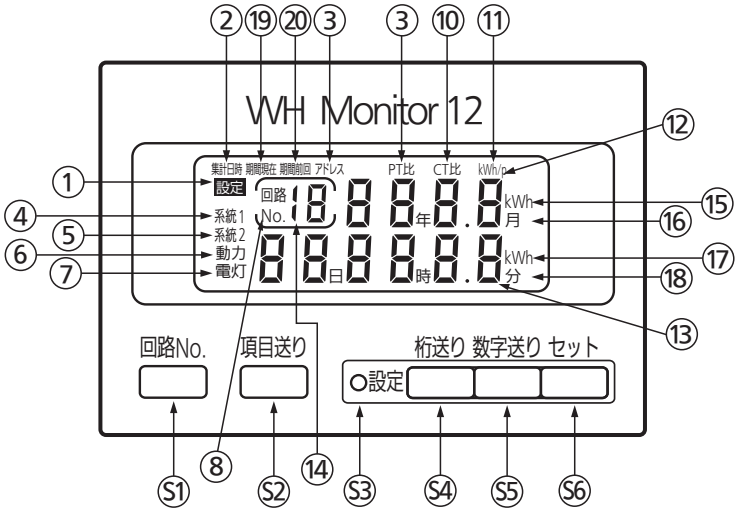
ケースの拭き掃除の際、有機溶剤
を使用しないでください。

変色、変形の原因になります。

使用時は
温度－１０～５０℃
湿度　３０～８０％
（結露しないこと）
の環境で使用してください。

上記以外の環境で使用すると
誤動作や故障の原因になること
があります。

操作部と表示部のなまえと機能



操作部

⑤1 回路No.キー	1）表示（通常）モードや設定モードで回路No.の指定を行います。 2）キーを押すと回路No.が→1→…→12→1→と順次切替わります。
⑤2 項目送りキー	1）表示モードの表示切換時や各種設定モードで操作します。 2）キーを押すと表示が（上段、下段の順）：→現在の瞬時電力、積算電力量の表示→現在の瞬時電力、期間現在の積算電力量の表示→現在の瞬時電力、期間前回の積算電力量の表示→1時間毎の積算電力量、日時→年月、日時分→現在の瞬時電力、積算電力量の表示→と順次切替わります。 3）設定モードでキーを押すと設定項目が順次切替わります。
⑤3 設定キー	1）設定モードに入りたい時に押します。 2）設定モードから何の設定もしないで表示モードに戻す場合にも押します。 3）ボールペンなど、先の細いもので押してください。
⑤4 桁送りキー	設定モードで年月日や数字の桁送りを行います。
⑤5 数字送りキー	1）表示モードで1時間毎の積算電力量の場合、時刻を→1→…→24→1→と順次正時刻を変化させていきます。 また選択の切替えを行います。（過去24時間分を順次確認できます） 2）設定モードで点滅した数字を→1→…→9→0→1→と順次変化させていきます。
⑤6 セットキー	1）設定モードで設定した項目をメモリに取込むと共に表示モードに戻ります。 2）クリア設定時には、各回路の期間現在、期間前回、積算電力量の値をクリアします。

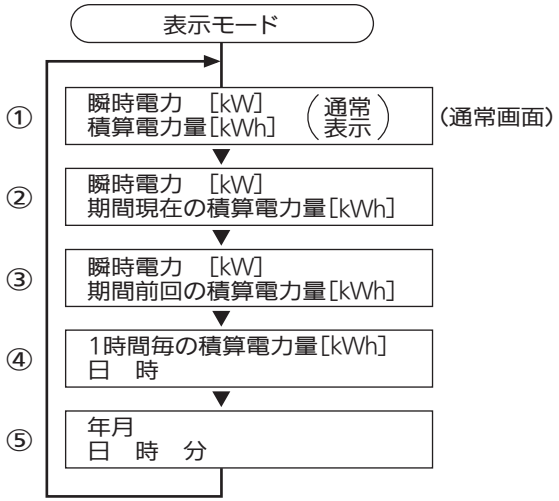
表示部

①設定	設定キーを押し、設定モードになっている時に点灯します。
②集計日時	1）表示モードで1時間毎の積算電力量の時に点灯します。 2）設定モードで期間現在や期間前回の集計日時設定の時に点灯します。
③アドレス（機器の認識番号）	設定モードで通信時のアドレスを設定する時または設定した後に点灯します。
④系統1、⑤系統2	1）表示モードで回路№に対応して系統1または系統2の選択した方が点灯します。 2）設定モードで系統を設定する時または設定した後に点灯します。
⑥動力、 ⑦電灯	1）表示モードで回路№毎に系統の種類(動力または電灯)の選択した方が点灯します。 2）設定モードで系統の種類を設定する時または設定した後に点灯します。
⑧回路№	1）表示モードで回路№を表示する時に点灯します。 2）設定モードで回路毎に設定する時または設定した後に点灯します。
⑨PT比	設定モードで系統1,2の入力電圧のPT比を設定する時に点灯します。
⑩CT比	設定モードで回路№のCT比を設定する時に点灯します。
⑪kWh/p	1）表示モードで№1～4回路中でパルス入力を選択した時に点灯します。 2）設定モードで№1～4回路中でパルス入力を設定する時または設定した後に点灯します。
⑫4桁数字または記号表示 **⑬6桁数字または記号表示** **⑭2桁数字表示**	1）表示モードで回路№瞬時電力、積算電力量、年月日時刻の値が点灯します。 2）設定モードで上記内容の設定をする時、または設定した後に点灯します。
⑮kW(h)、 ⑯年月、⑰kWh、 ⑱日時分	1）表示モードで瞬時電力、積算電力量、カレンダーなど年月日時刻を選択した時に単位として点灯します。 2）設定モードで上記内容の設定をする時または設定した後に単位として点灯します。
⑲期間現在(当月電力量) **⑳期間前回(前月電力量)**	1）表示モードで期間現在または期間前回の積算電力量を選択した時に点灯します。 2）設定モードで上記内容の設定をする時または設定した後に点灯します。

ご使用方法１（標準使用の場合）

●表示操作

項目送りキーを押すと次の順序で表示内容が切替わります。



①瞬時電力（kW）と積算電力量（kWh）表示（通常画面）

(1) 回路No.系統（1または2）、系統の種類（動力または電灯）と、上段に瞬時電力（kW）、下段に積算電力量（kWh）を表示しています。

(2) 回路No.キーを押し、表示したい回路No.を1→2→3→……12→1と切替えます。

②, ③期間現在と期間前回の積算電力量表示

(1)「通常画面」で項目送りキーを押し、期間現在値を表示します。

(2) もう1度項目送りキーを押すと、期間前回値を表示します。

(3) 回路No.キーを押すと、表示したい回路No.を1→2→3→……12→1と切替えます。

④1時間毎の積算電力量表示

(1)「期間前回」の画面から 項目送り キーを押します。

(2) 数字送り キーを押すと、
1→2→……24→1と順次時間が変化します。

(3) 回路No. キーを押すと、表示したい回路No.を
1→2→3……12→1と切替えます。

⑤カレンダー表示

(1)「1時間毎の積算電力量」の画面から
項目送り キーを押します。

(2)「カレンダー表示」画面から 項目送り キーを押すと、
「通常画面」①に戻ります。

(ご注意)
上記①～④について、回路No.をOFFに設定した回路は表示されません。

●設定操作

設定手順要領の説明

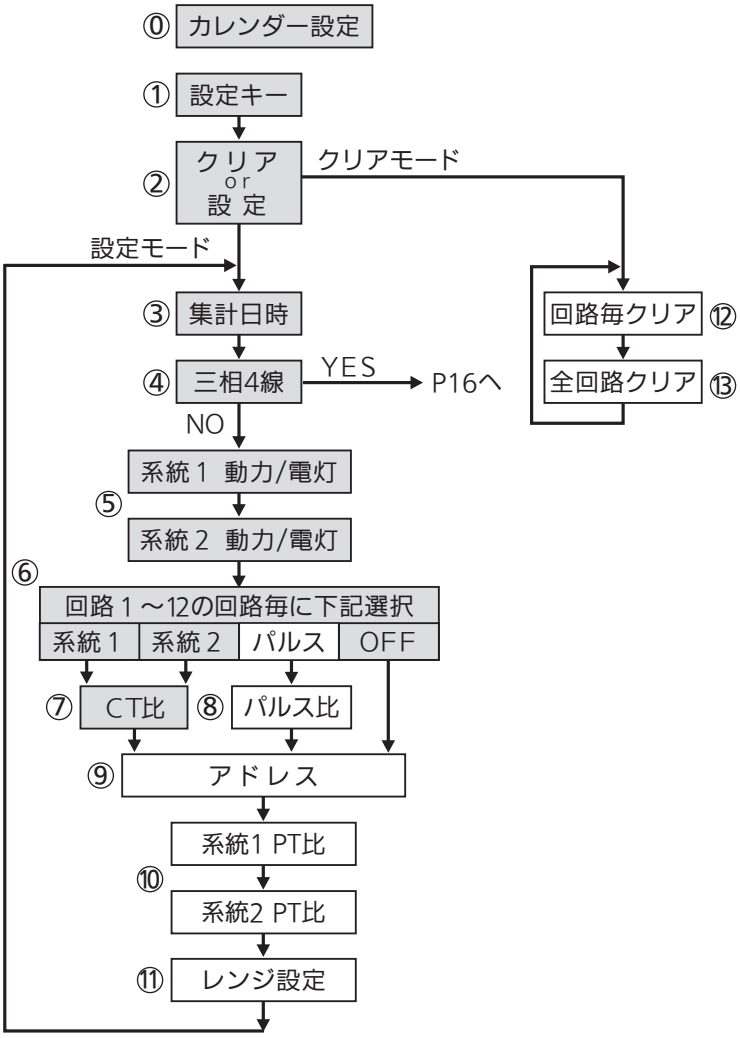
標準使用の場合
この間の操作
だけで完了

設定操作後
セットキーを
押すと
表示モード
「通常画面」
になります

通信を
使用する場合必要

400 V, 3 kV
または6 kV系
の場合必要

CTの定格電流
の10%以下の
軽負荷の場合
オートレンジに
設定変更



○設定項目数字はP９以降の詳細説明項目に対応しています。
○三相４線につきましてはP16をご参照ください。

設定時の注意事項

(1) 設定した項目や値は、最後に セット キーを押さないと有効になりません。

(2) 設定モードで、設定変更しないで「通常画面」に戻したい場合は、再度 設定 キーを押してください。

(3) 設定モードで 項目送り キーを押す前の状態が設定となりますので、連続して設定入力をする場合ご注意ください。

⓪カレンダー設定

(1) 項目送り キーを押し、「カレンダー表示」画面にします。

(2) 設定 キーを押します。

(3) 桁送り キーと 数字送り キーで年月日と現在時刻を設定します。

(4) セット キーを押し、確定します。
設定モードから設定の変更をしないで表示モードにもどる場合は 設定 キーを押します。

(5) 項目送り キーを押し、「通常画面」に戻します。

①②設定モードへ

(1)「通常画面」で、設定キーを押します。
「ＳＥＴ ＵＰ」が点滅していることを確認します。

(2) セット キー を押します。

③集計日時の設定

(1) 桁送り キーと 数字送り キーで、
集計したい日時を設定します。
（例では毎月１日の10時00分に積算電力量を集計します）

④三相4線以外の設定

(1) 項目送り キーを押します。
「ｎｏ」が点滅していることを確認します。

⑤系統1，2の種類（動力または電灯）の設定

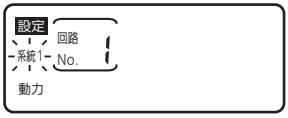
(1) 項目送り キーを押します。……系統１の設定

(2) 数字送り キーを押して、動力→電灯→動力→
と切替えます。

(3) もう１度 項目送り キーを押します。
……系統２の設定

(4) 数字送り キーを押して、動力→電灯→動力→
と切替えます。

⑥回路毎の系統設定

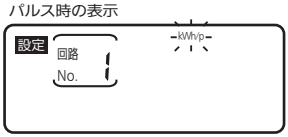


(1) 項目送り キーを押します。

(2) 数字送り キーを押すと表示が
→系統１→系統２→(パルス)→OFF→系統1と
切替わります。
☆OFFを選定するとその回路はスキップします。

(3) 回路№ キーを押すことで各回路の設定ができます。
☆(パルス)は回路№１～４のときのみ表示されます。

パルス時の表示



⑦回路毎のCT比設定

(1) 項目送り キーを押します。

(2) 桁送り キーと 数字送り キーでCT比を設定します。

使用CT	設定定数
100A	500
300A	1500
600A	3000

(3) 回路№ キーを押すことで各回路の設定ができます。

(4) 標準使用の場合は、
セット キーを押し、設定条件を確定させます。
標準使用以外の場合は、
セット キーを押さず、項目送り キーを押します。
「アドレス設定」モードへ移行します。

注）100、300、600 A以外のCTを使用する場合は、2次定格5 AのCTを選定し
補助CT（BNZY8CT005A）と組合せて使用してください。
CT比の設定はCT1次側定格値の5倍の値にしてください。

ご使用方法2（標準使用以外の場合）

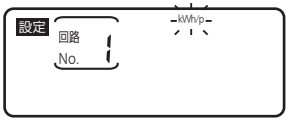
●設定操作

Ⅰ.パルス入力でのご使用方法

回路№1～4はパルス入力による積算としても使用できます。

⑧パルス比設定

(1) 前述⑥「回路毎の系統設定」で、
数字送り キーを押し、系統1→系統2→パルス→
OFF→系統1→「パルス」を選定します。



(2) 桁送り キーと 数字送り キーでパルス比を設定します。

(3) セット キーを押し、設定条件を確定させます。
設定を続ける場合は、セット キーを押さず
項目送り キーを押します。→「アドレス設定」モードへ。

パルス比の考え方

(1) 電力量計のパルス入力の場合
WHモニタのパルス比設定（kWh/p）は下記の要領で設定ください。

$$\text{パルス比} = \frac{\text{CT比} \times \text{PT比}}{\text{電力量計のパルス定数}}$$

(例) CT比 100/5 A=20
PT比 6600/110 V=60
パルス定数2000 p/kWhの場合

$$\text{WHモニタで設定するパルス比} = \frac{20 \times 60}{2000} = 0.6 \text{ kWh/p}$$

(2) エアー、水、蒸気、ガスなどの流量計のパルス入力の場合
WHモニタのパルス比設定（kWh/p）は下記の要領で設定ください。

WHモニタのパルス比設定範囲 ： 0.1～6553.5 kWh/p
WHモニタの積算電力量計測範囲 ： 00000.0～99999.9 kWh

以上から積算電力量が1回転（99999.9から00000.0に戻る）するパルス数は10～999999パルス検針期間中に1回転しないようにするためには999999パルス/検針期間となるようパルス出力機器側のパルス定数を選定してください。

（検針期間：日または週または月など）

$$\text{WHモニタのパルス比} < \frac{\text{流量計のパルス定数（L/P）} \times 99999.9}{\text{検針期間の流量＝流量（L/min）} \times \text{検針期間}}$$

上記の式になるよう流量計のパルス定数、WHモニタのパルス比を設定してください。

（例）検針期間を1ヵ月とした場合
流量400 L/min　流量計のパルス定数100 L/pとすると

$$\text{WHモニタのパルス比} < \frac{\text{流量計のパルス定数(L/p)X99999.9}}{\text{検針期間の流量＝流量(L/min)X60(分)X24(時間)X31(日)}}$$

上記式から

$$\text{WHモニタのパルス比} < \frac{\text{100(LXp)X99999.9}}{\text{400 L/minX60(分)X24(時間)X31(日)}} = 0.56$$

この場合はWHモニタのパルス比は0.5 kWh/pulse以下に設定してください。

設定後の使用流量はWHモニタの積算値が9999.9 kWhの場合

$$\text{使用流量} < \frac{\text{WHモニタの積算値（kWh）}}{\text{WHモニタのパルス比（kWh/p）}}$$

$$= \frac{9999.9\text{(kWh)}}{0.5\text{(kWh)}} \times 100\text{(L/p)} = 1999980\text{(L)}$$

（ご注意）
WHモニタのパルス入力設定は kWh/pのみとなっています。
集計上（収集データによる表作成上）で L/min、L/ 月など希望の単位に変換してください。

II.通信出力でのご使用方法

自動集計用のコンピュータなどと通信を行う時、アドレス設定が必要です。

⑨アドレスの設定

(1) 桁送り キーと 数字送り キーでアドレスを設定します。
(2) セット キーを押し、設定条件を確定させます。
設定条件を続ける場合は、セット キーを押さず
項目送り キーを押します。→「系統1 PT比設定」モードへ。

Ⅲ.高圧回路（400 Vを含む）でのご使用方法

入力電圧が240 Vを超える場合は直接入力せずにPTを介して110 Vに降圧して入力し、PT比を設定する必要があります。

⑩系統1，2のPT比設定

(1) 桁送り キーと 数字送り キーで系統1のPT比を設定します。

☆標準使用時の設定は25です。

使用PT	設定定数
440/110の場合	0100
3300/110の場合	0750
6600/110の場合	1500

(2) 項目送り キーを押します。

(3) 桁送り キーと 数字送り キーで系統２のPT比を設定します。

(4) セット キーを押し、設定条件を確定させます。
設定を続ける場合は、セット キーを押さず
項目送り キーを押します。→「レンジ設定」モードへ。

Ⅳ.オートレンジのご使用方法

CTの定格電流の10 %以下の軽負荷の場合、オートレンジを使用することにより高精度な測定ができます。

⑪レンジ設定

(1) 数字送り キーを押すと、
FULL→Auto→FULL→・・・
と交互に切替わります。

(2) セット キーを押すと、設定条件が確定されます。

V.データクリアの設定方法

- 期間現在と期間前回の積算電力量、および積算電力量の値をクリアして0に設定します。
- クリア設定の誤操作は貴重な電力量のデータを消去しますので注意して操作をしてください。

⑫回路毎クリアの設定

(1)「通常画面」で 設定 キーを押します。
（ＳＥＴ ＵＰが点滅）

(2) 数字送り キーを押し、「ＣＬｒ」点滅を確認します。

(3) セット キーを押します。

(4) 回路№ キーによりクリアしたい回路№を設定。

(5) セット キーを押します。

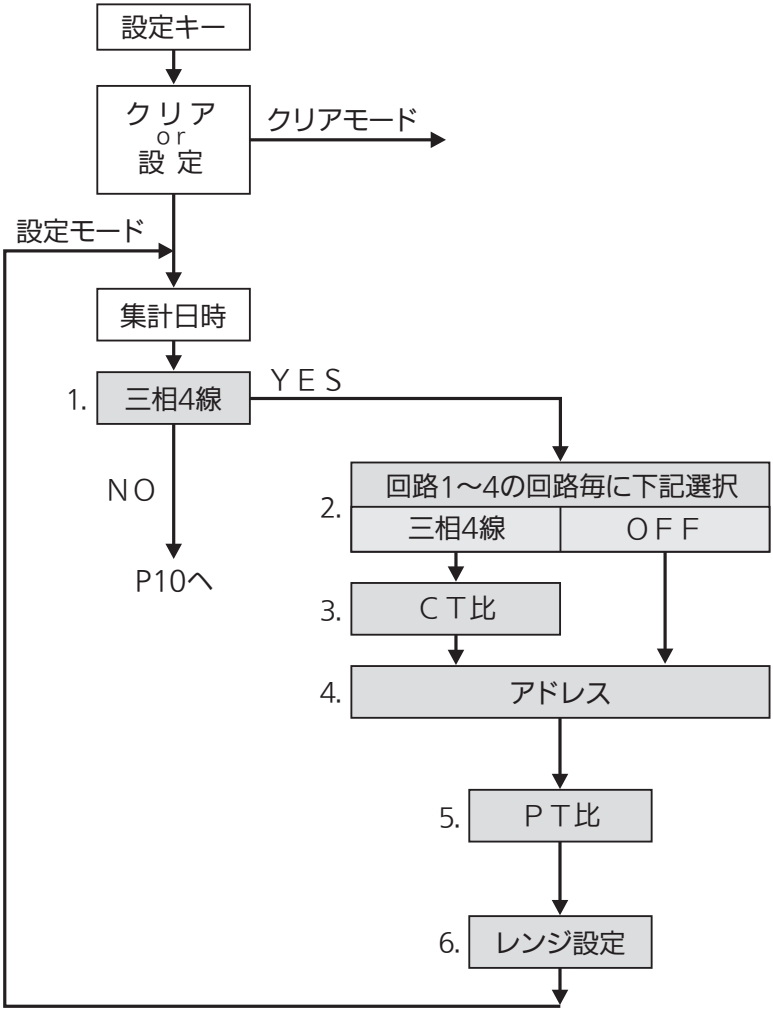
(6) 設定 キーを押しますと元の「通常画面」にもどります。
または、
項目送り キーを押します。→「全回路クリアの設定」モードへ。

⑬全回路クリアの設定

(1) セット キーを押すと、全回路の期間現在と期間前回の積算電力量、および積算電力量の値をすべてクリアしてゼロ設定し、「通常画面」にもどります。

Ⅵ.三相4線式のご使用方法

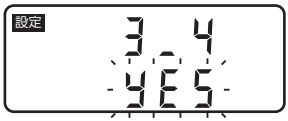
設定操作フロー



三相4線は結線や測定回路が4回路分に限定されます。三相4線で使用できるよう取扱手順を示しております。(CTなどの接続方法については、施工説明書をご参照ください)

1. 相線式の設定

(1)『集計日時』設定表示で、**項目送り**キーを押すと相線式の設定画面となり、上段に『３－４』、下段に『YES』または『No』の表示ができます。

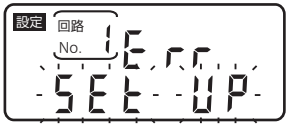


(2) **数字送り**キーにより、下段の表示が No→YES→No→YES と交互に切替わります。三相４線の設定ですから、『YES』を選択してください。

〈備考〉その他の相線式(単相2線、単相3線、三相3線)から三相4線へ設定変更した場合は、WHモニタの測定回路数が12→4に切替わります。

2. 各回路(1～4回路)の設定

各回路 4 回路の設定は同じ操作の繰り返しであり、以下に 1 回路分の設定方法を示します。



(1) その回路を使用するか、使用しない(スキップ)かの選択

① 回路の設定のため**項目送り**キーを押すと未だ設定されていないことを示す上段が『E r r』、下段に『SET UP』と表示します。

② **数字送り**キーを押すことにより『３－４』→『OFF』→『３－４』→と交互に切替わります。スキップさせたい場合は『OFF』を選択してください。使用する場合ですから『３－４』を選択します。

3. ＣＴ比の設定

使用と選択した回路のCT比を設定します。

(1) **項目送り**キーを押し、使用回路のCT比の設定を行います。
(設定方法はＰ11 の⑦「回路毎のCT比設定」参照)

4. アドレスの設定(通信する時)

(1) **項目送り**キーを押し、アドレスの設定を行います。
(設定方法はＰ13 の⑨「アドレスの設定」参照)

5. ＰＴ比の設定

(1) **項目送り**キーを押し、PT比の設定を行います。
(設定方法はＰ14 の⑩「系統 1, 2 の PT 比設定」参照)

〈備考〉系統1,　系統2の表示はしません。

6. レンジ設定

(1) **項目送り**キーを押し、レンジの設定を行います。
(設定方法はＰ14 の⑪「レンジ設定」参照)

設定時の参考事項

対象番号	
⓪	年の表示範囲は1990～2089年で、1990～1999年は4桁表示、 2000～2089年は下2桁表示となります。 年の設定できる範囲は00～99年で、その中の90～99年の設定の場合は自動的に 左側に“19”が表示され1990～1999と4桁で設定されます。 00～89年は2000年台を意味し、2桁表示となります。 例えば、“03”の場合は2003年を示します。
③	集合日時は期間現在や期間前回の集計期間を決めるためのものです。 集計日時の設定の仕方により、下記のような期間積算電力量の集計となります。 ▽月に１回集計の場合　　≪例 01日10時≫ 日時を設定します。例では毎月１日の10時00分に積算電力量を集計し、 期間現在の値は今までの値をクリアして0から再積算し、期間前回の値は クリアされる前の期間現在の値が期間前回の値として集計されます。 月報を作成するのに有効です。 集計日時を31日に設定した場合、月末が30日(4,6,9,11月)や28日(2月)でも 月末集計となります。 ▽日に１回集計の場合　　≪例 －－日10時≫ 時を設定します。例では毎月10時00分に積算電力量を集計することを 示し、期間現在や期間前回の値の変更については①と同様です。 日報を作成するのに有効です。 ▽集計しない場合（集計無効）　　≪例 －－日－－時≫
⑥	OFFは回路の不使用のことで、表示モードでは設定回路はスキップして表示 されません。 OFFを選択した回路は、CT比やパルス比の設定が不要なので表示されません。
⑦	CT比の設定範囲は0～65535で、桁送りキーと数字送りキーにて設定して ください。 キー操作中に設定範囲外の値になれば、00000となります。
⑧	パルス比の設定範囲は0.0～6553.5で、CT比の設定と同様に設定してください。
⑨	アドレスの設定範囲000～255で、桁送りキーと数字送りキーにて 設定してください。 3桁目は数字送りキーにより→0→ 1 → 2→ 0→ ･･･と順次切替わります。 2桁目と1桁目は集計日時の設定と同様に0～9の間で順次切替わります。 〈備考1〉３桁目の設定で 2→ 3とした時または１～３桁の設定で値が範囲外の値に なればアドレスの値は 000 となります。 （例）①　210 で 2 →3 とした時 ②　253 で 5 →6 または 3 →6 と切替えようとした時
⑩	PT比の設定範囲は0～65535で、桁送りキーと数字送りキーにて設定して ください。 キー操作中に設定範囲外になれば、00000となります。

使用時の注意事項

(1) 同一通信線に接続するWHモニタは全て異なるアドレスを設定してください。
アドレスが重複しますと通信エラーや正しくデータ収集できないことが発生します。

(2) WHモニタの駆動電源は計測する系統電圧を使用し、電源工事などで系統1
または系統２が停電になった場合、自動的に他の給電されている系統から
ＷＨモニタ駆動電源をとるようにバックアップします。

(3) 初めて通電する時や全停電からの復帰時(復電時)は電源系統1に通電することが必要です。系統1に給電がないとWHモニタは立上がりません。

(4) WHモニタ自体の保護としてヒューズをプリント基板に設けておりますので、
外部にヒューズを設けなくても安全に使用できます。
ただし、プリント基板のヒューズが切れたときはWHモニタに異常があると
考えられますので修理が必要です。

(5) 電源系統1および2の入力前にはブレーカを設置してください。
目的は万一の結線ミスなどの保護と、測定回路の電圧入力変更などの
メンテナンス性の確保です。

(6) 停電補償として、計測値と設定値はEEPROMにて記憶していますので、復電時
に再表示し動作できます。
カレンダーと時計は内蔵バッテリーにより約200時間動作します。
内蔵バッテリーは初めて使用する時などは蓄電量が少なくなっていることが
ありますが、約1日通電使用していただければ充電されます。

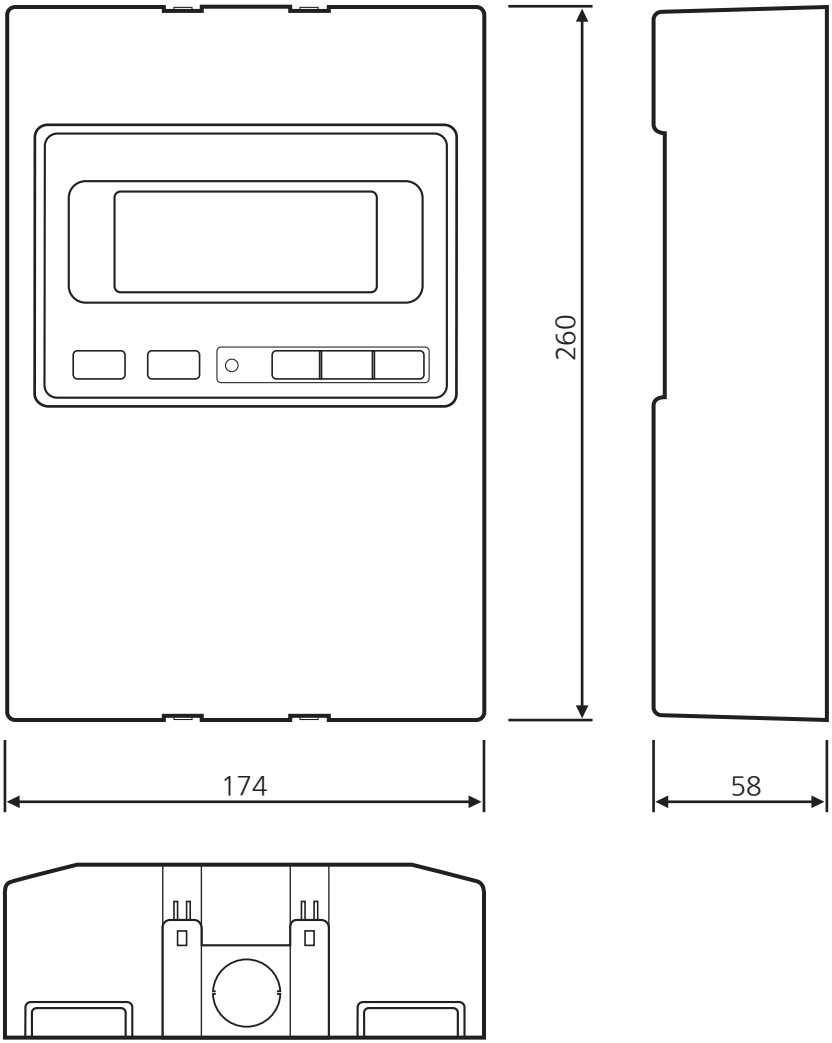
(7) 取扱説明書や施工説明書どおりに操作して動作しない場合は、WHモニタの
カバーを開けるなどしないで、保証とアフターサービスのページに記載の
設置店または弊社までご連絡ください。

(8) 本製品にはP22記載の専用部品(CT，CTケーブル，パルスケーブル)をご使用
ください。

(9) 無負荷の回路は「OFF」設定されることを推奨します。
(P11「設定操作」の「回路毎の系統設定」参照)
WHモニタは微小電力まで計測できるようになっておりますので、無負荷
回路でも積算電力量が微増することがあります。

外形寸法図（本体）

単位：mm



定格・仕様一覧表

1.本体

種　類	管理用電力モニタ		
品　番	BNZY8210WHM		
相線式	単相２線，単相3線，三相3線，三相4線	設定　単相：電灯，三相：動力	
計測・表示	積算電力量	00000.0 ～ 99999.9 kwh（最大値オーバーで 0 から再スタート） 普通計器	
	期間前回値（月,日）	前回の集計期間の電力量	
	期間現在値	集計時から現在までの電力量	
	瞬時電力	－999 ～ 3276 kW（10 kW 未満は 0.1 kW 単位）	
	1時間毎の電力量	直前の 24 時間分	
	カレンダー・時計	1990～2089年（年・月・日・時・分）	
	LCD（バックライト付）	電力量は6桁（整数位：5桁）	
測定系統数	2 系統	電源2系統（三相4線は1系統）	
測定回路数	12回路	回路毎に系統設定可能（三相4線は4回路）	
パルス入力	4回路	12回路中の4回路の置換え可能（三相4線は使用できません）	
回路電圧	100/200 V	85～240 V	
定格電流	0.2 A	CT入力	
定格周波数	50/60 Hz	異周波数の系統は同時入力不可	
機器使用電力	15 VA以下	電源は測定電源共用	
停電補償	永久（EEPROM） 200時間（内臓バッテリ）	設定値と累積値 カレンダー，時計，1時間毎の電力量（最大2ヵ月分）	
通信機能	R S-485，9600 bps 設定値，カレンダー，データ〔上記計測データ,V，I ,1時間毎の電力量（最大2ヵ月分）〕		
設　定	集合日時，回路の種類，PT比，CT比，時計など		
外形・質量	W174 X H260 X D58（mm），1.5 kg		
取付方法	屋内壁掛取付、配線は上下面、背面引き込み CTケーブル使用　CT～WHモニタ間の最大距離：50 m パルスケーブル使用　パルス発信装置～WHモニタ間の最大距離：20 m		
使用環境	温度：-10～50 ℃，湿度：30～80 %（結露しないこと）屋内で使用のこと		

2.CT（コネクタ付）

● 貫通形

品　番	BNZY8CT001A	BNZY8CT003A	BNZY8CT006A	BNZY8CT005A
定格電流	100 A	300 A	600 A	5 A（補助CT）
2次電流	0.2 A	0.2 A	0.2 A	0.2 A
定格負担	0.2 VA	0.2 VA	0.2 VA	0.2 VA
内　径	φ19 mm	φ26 mm	φ52 mm	φ19 mm
外　径	φ36 mm	φ49 mm	φ82 mm	φ36 mm
厚　さ	15 mm	20 mm	26 mm	15 mm

CTの2次側にはオープンに対する保護回路が付いています。

● 分割形

品　番	BNZY8CT101A	BNZY8CT103A	BNZY8CT106A	BNZY8CT050UD	BNZY8CT100UD
定格電流	100 A	300 A	600 A	50 A	100 A
2次電流	0.2 A	0.2 A	0.2 A	0.2 A	0.2 A
定格負担	0.2 VA	0.2 VA	0.2 VA	0.2 VA	0.2 VA
内　径	φ20 mm	φ28 mm	φ40 mm	φ16 mm	φ16 mm
外　径	φ64 mm	φ74 mm	φ79 mm	φ31 mm	φ31 mm
厚　さ	27 mm	27 mm	27 mm	18.5 mm	18.5mm

CTの2次側にはオープンに対する保護回路が付いています。

3.CTケーブル（CT～WHモニタ間）

線　種	シールド線：MVVS　3芯、両端コネクタ付
長　さ	3 m，5 m，10 m，20 m，30 m，50 m

4.パルスケーブル（パルス発信装置～WHモニタ間）

線　種	シールド線：MVVS　5芯、片端コネクタ付
長　さ	3 m

設定定数一覧表

WHモニタ番号（またはアドレス）：

設定項目		設定範囲	出荷時設定値	初期設定	年月日	変更設定	年月日
集計日時			31日24時	日 時		日 時	
三相4線		No, YES	No		/ /		/ /
系統1		動力／電灯	動力		/ /		/ /
系統2		動力／電灯	動力		/ /		/ /
回路No.1	系統	系統1, 2, パルス, OFF	系統1		/ /		/ /
	CT／パルス比	0-65535,0-6553,5	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.2	系統	系統1, 2, パルス, OFF	系統1		/ /		/ /
	CT／パルス比	0-65535,0-6553,5	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.3	系統	系統1, 2, パルス, OFF	系統1		/ /		/ /
	CT／パルス比	0-65535,0-6553,5	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.4	系統	系統1, 2, パルス, OFF	系統1		/ /		/ /
	CT／パルス比	0-65535,0-6553,5	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.5	系統	系統1, 2	系統1		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.6	系統	系統1, 2	系統1		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.7	系統	系統1, 2	系統2		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.8	系統	系統1, 2	系統2		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.9	系統	系統1, 2	系統2		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.10	系統	系統1, 2	系統2		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.11	系統	系統1, 2	系統2		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
回路No.12	系統	系統1, 2	系統2		/ /		/ /
	CT比	0-65535	00500		/ /		/ /
	レンジ	FULL, Auto	FULL		/ /		/ /
アドレス		0～255	001		/ /		/ /
系統1　PT比		0～65535	00025		/ /		/ /
系統2　PT比		0～65535	00025		/ /		/ /

保証とアフターサービス　よくお読みください

修理・使いかた・お手入れ などは
■まず、お買い上げの販売店へご相談ください
▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名
電　話（　）　ー
お買い上げ日　年　月　日

修理を依頼されるときは
お買い上げ日と以下の内容をご連絡ください。

●製　品　名	BNZY8210WHM
●品　番	多回路形電力モニタ（管理用）
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店・工事店が修理をさせていただきますので、おそれ入りますが販売店・工事店にご相談ください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合は、ご要望により修理させていただきます。
＊修理料金は、次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
出張料	技術者を派遣する費用
部品代	部品および補助材料代

＊補修用性能部品の保有期間　7年
当社は、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

■相談先がなくお困りの場合は、以下の**お客様ご相談窓口**にご相談ください。

アフターサービス　パナソニックお客様ご相談窓口のご案内

●この製品の修理・部品などのご相談は、まず工事店へお申し付けください。

使いかた・お買い物などのご相談は

パナソニック総合お客様サポートサイト
http://panasonic.co.jp/cs/

パナソニック　お客様ご相談センター　365日 受付9時～20時
電話 フリーダイヤル 0120-878-365
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。
音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの「87」と「640#」を押してください。
（番号を押しても案内が続く場合は、「＊」ボタンを押してから操作してください。）
■上記番号がご利用いただけない場合　06-6907-1187
■FAX フリーダイヤル　0120-878-236
Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03)3256-5444 Osaka (06)6645-8787
Open:9:00 - 17:30 (closed on Saturday/Sundays/nationalholidays)
※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

修理・部品などのご相談は

パナソニック エコソリューションズ　修理サービスサイト
http://sumai.panasonic.jp/support/repair/

パナソニック エコソリューションズ　修理ご相談センター
ナビダイヤル（全国共通番号）0570-081-365
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。365日／受付9時～20時
ただし、携帯電話・PHS・IP/ひかり電話などは下記の電話番号へおかけください。
大阪☎06-6906-1090
札幌☎011-261-6401㊟　名古屋☎052-551-7900㊟
東京☎03-5392-7190㊟　福岡☎092-622-0531㊟
※㊟印は大阪へ自動転送になり、拠点から大阪までの転送通信料は当社負担です。

※電話番号、受付時間などが変更になることがあります。

便利メモ

回路割付表　WHモニタ番号（またはアドレス）：

回路No.	測定回路名称	回路No.	測定回路名称
1		7	
2		8	
3		9	
4		10	
5		11	
6		12	

設定おぼえ書き

設置日	年　月　日	品番	BNZY8210WHM
設置店名	TEL（　）　ー		
お客様ご相談窓口	TEL（　）　ー		

【ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて】
パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容を録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

㊟ 記載内容は、2012年1月現在のものです。仕様・定格は改善のため予告なく変更する場合があります。

パナソニック株式会社
パナソニック エコソリューションズ電路株式会社
〒571-8686　大阪府門真市門真 1048 番地　TEL（代表）06-6908-1131

©Panasonic Corporation 2012

HQZRZ82101J
PC0810-10112